



## 講座のアピールポイント

当講座では診療面において、多数の手術を実施し、特にロボット支援手術や内視鏡手術においては県内でも有数の手術件数を誇っております。そのため豊富な臨床例が蓄積されており、これらを通し種々の臨床研究や基礎研究を行っております。また、悪性腫瘍に対しては化学療法や放射線治療と組み合わせて、積極的な外科切除により、治療成績の向上を図っており、高難度手術では県下有数の症例数を誇っています。つまり、通常の診療経験から疑問に感じた点や改善の余地があると考えた点について、臨床的視点やさらに掘り下げた基礎的視点から研究を行っております。そのため、癌治療、癌の転移の仕組み、癌の悪性度評価、癌の再発や予後の予測因子の同定などの腫瘍学や、手術手技、手術のアプローチ法、術後の周術期管理など外科学についてなど、幅広く研究を行っております。そして、これらの研究によって得られた新しい知見は、実際の診療に役立てられており、治療成績の向上に繋がられています。一方、よりエビデンスレベルの高い研究成果を得るために、県内や全国的な多施設共同研究に参加したり、新しい治療法開発に向け欧米研究機関との共同研究に向けたプロジェクトを進めております。

さらに、一般のかた向けや地域医師会、県の看護協会等における講演会などにも積極的に実施し、癌治療についての啓蒙活動を行っております。

## 講座研究紹介

現在、当講座では肝胆膵・上部消化管・下部消化管のそれぞれのグループが以下の研究を進めております。

### 肝胆膵グループ

#### ① 進行肝胆膵癌に対する積極的な外科切除に関する研究

進行癌に対しても化学療法と外科的切除を組み合わせた集学的治療、血管合併切除など高度外科手術手技を工夫して用いることで治療成績の向上を目指しています。特に、術前補助療法の効果に期待しており、癌組織の分子病理学的な変化の検討を行い、臨床・基礎にまたがる研究をとおして、よりよい治療を目指します。また、最新の重粒子線治療をこの分野でのトップランナーである QST 病院と協力して、進行癌の治療に活用する研究を行っております。

#### ② ロボット尾側膵切除手術の短期・長期成績に関する研究

膵切除術に低侵襲手術としてのロボット支援手術を本邦の中でも早い段階から導入し、患者さまへの侵襲度、治療効果について検討をしています。

#### ③ 治療応用を考えた基礎研究

癌細胞と周囲の間質細胞の相互作用を分子生物学的な面から解明する研究を行っております。特に、間質細胞、癌細胞周囲の免疫細胞と癌細胞との相互作用に着目し、術前治療が癌免疫にどのような作用をもたらすかを解明、この患者様に最適な治療法を選択する手法の開発を行っております。

～近赤外線カメラによる癌組織の可視化：通常の可視光では判別できない物質の組成を画像としてとらえることができる近赤外線カメラの開発に取り組んでいます。これまでは肉眼ではわからなかった癌組織周囲への微小リンパ節や神経にそった浸潤を可視化し、最適な手術療法の選択法を開発します。

### 上部消化管グループ

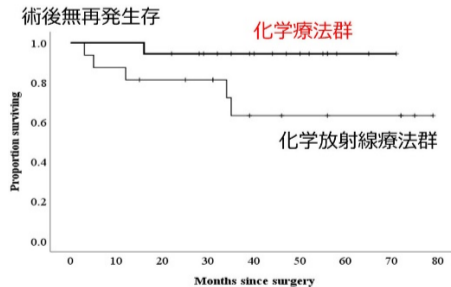
#### ① 食道癌には全例に最新の術式である縦郭鏡下手術を実施しています。

#### ② 胃癌には、99%を鏡視下（腹腔鏡とロボット）にて施行しており、ロボット経験数は東日本で最多です。

#### ③ 当科で開発した新術式や新技術を臨床試験中であり、種々の臨床研究を施行可能な状況にある。

### 下部消化管グループ

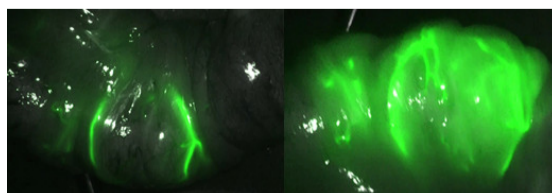
#### ① 直腸癌に対する術前化学放射線療法と術前化学療法の有効性に関する研究



#### ② StageII 結腸癌における線維性癌間質の研究

線維性癌間質の評価が癌の再発予測因子として有用であることを報告しております。

#### ③ 縫合不全減少を目指した ICG 蛍光造影法の有用性についての研究



#### ④ ロボット支援直腸切除術の短期・長期成績に関する研究